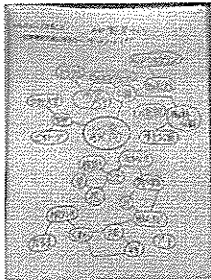
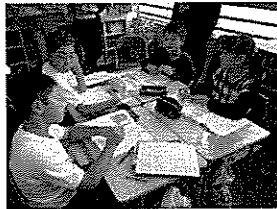

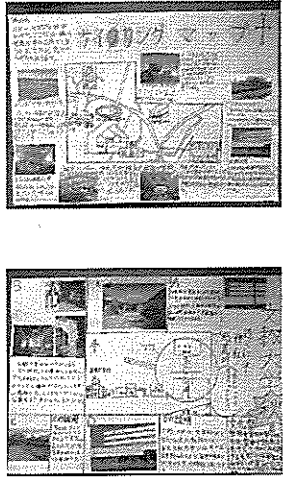
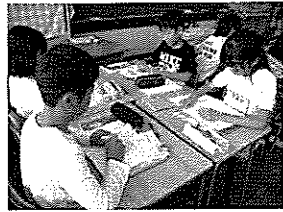


時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	図書室	学年でオリエンテーションを開き、単元のねらい、内容や計画について話を聞き、写真等を使って「ガイドマップを作る」という活動の方向性を知らせる。その後、自分が紹介したい地域(建物や自然)をウェブページマップに書かせ、ガイドマップに載せたいものや、資料を集める方法を考える。	 	<p>児童は「景観」という言葉について意味を理解していなかったため、まずは、景観という意味のとらえが必要であった。</p> <p>「サイクリングマップ」を作り、「荻島観光大使になろう」というテーマにしたことで、紹介したい場所だけでなく季節や自然にも意識を広げることができていた。</p>
2	各教室	各教室で、ガイドマップに載せたいものをもとにグループ編成を行う。その後、ガイドマップの下書きを作成し、実際に現地で調べたいこと、写真に撮りたい場所を決め、計画を立てる。		<p>グループに分かれて地域について詳しく調べることで、他地域にはないすばらしさがあり、もっと調べてみたいという意欲を持って、積極的に調査計画を立てていた。</p> <p>対象者を誰にするかによって、ガイドマップの構成にも工夫が見られた。</p>
2	通学路	<p>調べたいことを学習計画に沿って、グループごとに調査する。</p> <p>1グループにつきカメラ1台を持ち、紹介したい場所や自然(田や植物)を選んで写真を撮る。</p> <p>撮ってきた写真はどのグループでも使えるように、場所ごとに整理する。</p> <p>地域のよさを見つけるだけでなく、地域をよりよくするための視点も持って観察する。</p>	 	<p>4コースに分かれて行った調査では、ガイドマップ用に写真の撮り方を工夫していた。(4年生の国語科で学習したアップとルーズを生かしていた)</p> <p>地域のよさを見つけるだけでなく、地域の問題点も積極的に見つけることができ、改めて自分たちが住んでいる地域を見直すことができていた。</p>
2	各教室	撮ってきた写真を効果		撮ってきた写真を見な

		<p>的に使いながら、グループごとにガイドマップ作りを行う。</p> <p>対象者を意識しながら(文字の大きさ等)作成する。</p> <p>国語科の「明日をつくるわたしたち」と関連させて、まちのよさを生かしていくための提案書を作成するために話し合う。</p> <p>グループごとに交流会のための発表リハーサルを行う。</p>		<p>がら、みんなに知らせたい地域の魅力について話し合った。</p> <p>魅力だけでなく、改善したい点にも気づき、取り上げて話し合うこともできた。</p> <p>その後、撮ってきた写真を貼ったり、地図を書いたりする作業を楽しんでいた。</p>
1	各教室	<p>「荻島観光マップ」交流会を行う。対象者は誰か、どの順で回るのがおすすめか、それぞれの場所のおすすめポイントを紹介する。紹介後、それぞれのグループのガイドマップのよさや発表の仕方のよさについて交流する。</p>		<p>それぞれのグループで調べたことを発表し、自分たちが調べなかった観点についても知ることにより、地域全体の景観の魅力把握することができた。</p> <p>また、その景観をさらに維持していくための方法を一人一人が持つことができ、国語科の学習に生かすことができた。</p>

## ②学習指導案

単元名 (全8時間)	<p>今私たちにできること ～地域景観プランナーになろう～</p>
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場所によって地域・自然・景観のよさが異なることに気づく。</li> <li>○自分の暮らす地域と、他の場所の地域・自然・景観との違いを知る。</li> <li>○自分のまち(地域)のよさについて、友達の考え方や見方に違いがあることを知る。</li> <li>○情報収集能力を身に付け、情報を効果的に伝えていく方法を体験する。</li> <li>○まちのよさを生かしていくために必要なことを話し合う。</li> <li>○国語科「明日をつくるわたしたち」と関連させて、まちのよさを生かしていくための提案書を作成する</li> </ul>
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションを開き、事前に調べるところのイメージをつくり、学習計画を立てる。</li> <li>2 グループ編成を行い、現地で調べたいこと、写真に撮りたい場所を決め、ガイ</li> </ol>

	ドマップ作りの計画を立てる。 3 コースに分かれ、地域を調査する。 4 調べた場所について整理し、まち(地域)の魅力を伝えるためのガイドマップをつくる。 5 「荻島観光マップ」交流会を開く。
参考資料 準備品 実施場所等	地図・社会科副読本「わたしたちの越谷」 デジタルカメラ・画用紙・ワークシート等 図書室・各教室・コンピュータ室・調べる地域

## 学習の流れ

時間	学習活動・	教師の指導・	評価★
1	○学習計画を立てる ・単元のねらいや地域で撮影した写真等を使って「ガイドマップを作る」という活動の方向性を知る。 ・自分が紹介したい地域(建物や自然)をウェビングマップに書かせ、ガイドマップに載せたいものや、資料を集める方法を考える。	・単元の流れについて、資料を基に説明する。 ・児童が調べたいと思っていることなどを分類し、児童の多様な発想や思いをまとめ、学習計画を立案する。	★地域にはどんなものがあるか関心を持ち、探したり、調べたりしようとしている。 (観察) ★課題を設定し、適切な学習計画を立てることができる。 (観察・ワークシート)
2	○ガイドマップ作りの計画を立てる ・各教室で、ガイドマップに載せたいものをもとにグループ編成を行う。 ・ガイドマップの下書きを作成し、現地で調べたいこと、写真に撮りたい場所を決め、計画を立てる。	・対象者を意識させる。 ・地域の地図を渡し、地図をもとにしながら、オリジナルのガイドマップを作成させるようにする。	★紹介したい場所を基に、グループで話し合い、ガイドマップ作成のための計画を立てることができる。 (観察・ワークシート)
2	○グループごとに地域を調査する ・調べたいことを学習計画に沿って、グループで調査する。 ・地図とカメラを持ち、紹介したい場所や自然(田や植物)を選んで写真を撮り、場所ごとに整理する。 ・地域のよさを見つけるだけでなく、地域をよりよくなる	・地域の地図とカメラを渡し、多くのものを見つけることができるようにする。 ・撮った写真の場所を整理し、まとめ方に生かせるようにする。 ・国語科の学習を関連させるために、地域の魅力だけではなく、改善したい点にも気付かせ、話し合わせるようにする。	★友達と協力しながら、探求活動をすることができる。 (観察・ワークシート)

	ための視点も持って観察する。		
2	<p>○まち(地域)の魅力を伝えるためのガイドマップをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・撮ってきた写真を効果的に使いながら、グループごとにガイドマップ作りを行う。</li> <li>・国語科の「明日をつくるわたしたち」と関連させて、まちのよさを生かしていくための提案書を作成するために話し合う。</li> <li>・グループごとに交流会のための発表リハーサルを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影した写真をわかりやすく伝えられるようにするため、モデルを提示し、見通しを持たせる。</li> <li>・対象者を意識させながら(文字の大きさ等)作成させる。</li> <li>・具体的にアドバイスできるように話し合いの仕方を提示する。</li> </ul>	<p>★友達と協力しながら、ガイドマップを作成することができる。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
1	<p>○「荻島観光マップ」交流会を開く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者は誰か、どの順で回るのがおすすめか、それぞれの場所のおすすめポイントを紹介する。</li> <li>・学習を振り返り、自分の調べた地域との関わりについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手を意識したまとめかたや発表の仕方について考えさせ、工夫した発表にできるようにする。</li> <li>・それぞれのグループのガイドマップのよさや発表の仕方のよさについて交流させる。</li> </ul>	<p>★地域のよさを感じるとともに、自分ができることについて考えつことができる。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>

〈留意点〉

- ・ガイドマップを作成するにあたり、モデルの提示や資料の提示をすることで見通しを持たせるようにする。
- ・デジタルカメラを持たせるため、個人情報や機器の取り扱い方についても指導をする。

③実施内容について

(1)実施にあたり工夫した点

- ・「荻島観光大使になろう」というテーマで行ったことによって、児童がどんなガイドマップを作ったらよいのか見通しを立てることができた。
- ・グループに1台デジタルカメラを持たせ、実地踏査を行ったことで児童の活動意欲を持たせることができた。また撮影した写真は、全グループが共有できるように、場所ごとに整理した。

(2)実施にあたり苦労した点

- ・児童は「景観」という言葉について意味を理解していなかったため、まずは、景観という意味のとらえが必要であった。
- ・時間が限られていたため、児童が調査したいと思った場所すべてを調査することができなかった。

(3) 児童の反応

- 景観の意味がわかり、自分たちの住む地域にも美しい景観が多くありそうだということがわかると、大変意欲的に計画を立て、調査活動を始めた。
- 自分たちで調査を行い、撮ってきた写真を貼ったり、地図を書いたりする作業を楽しんでいた。
- それぞれのグループで調べたことを発表し、自分たちが調べなかった観点についても知ることにより、地域全体の景観の魅力を把握することができていた。
- その景観をさらに維持していくための方法を一人一人が持つことができ、国語科の学習に生かすことができていた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- 実際に地域を歩き、学年で教材研究に取り組んだ。児童の目線になって教材研究を進めたことが生かされ、いきいきとした児童の活動が見られた。
- 児童の住む学区のよさを、指導者側も改めて認識することができた。

(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]

- 今回は、ガイドマップを作成するにあたり、実地踏査しか行わなかったため、次回行う際には、地域の景観を作り、維持するための多くの人々の工夫や苦勞にも気付くことができるように、インタビューを行ったり、ゲストティーチャーをお招きしたりしたい。